平成 19 年 11 月 9 日

各 位

会社名　あいおい損害保険株式会社
代表者名　取締役社長　児玉　正之
(コード番号　8761 東証・大証・名証)
問合せ先　企業広報部　IR室長
成田　和広
経理部　主計グループ長
郷　英延
電話　03－5424－0101

業績予想(平成 20 年3月期　中間期及び通期)の修正に関するお知らせ

平成 19 年 8 月 22 日に公表いたしました業績予想(平成 20 年 3 月期　中間期及び通期)を下記の通り修正いたします。

1. 平成 20 年 3 月期 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)業績予想の修正

(1)連結　(単位:億円)

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想　(A) (平成 19 年 8 月 22 日公表)	5,450	55	75	10 円 21 銭
今回修正予想　(B)	5,685	102	102	13 円 89 銭
増　減　額　(B−A)	235	47	27	3 円 68 銭
増　減　率　(B−A)／(A)	4.3%	85.5%	36.0%	36.0%
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期中間期)	5,416	121	82	11 円 18 銭

(2)個別　(単位:億円)

	正味収入保険料	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想　(A) (平成 19 年 8 月 22 日公表)	4,330	145	135	18 円 37 銭
今回修正予想　(B)	4,286	206	177	24 円 09 銭
増　減　額　(B−A)	△　44	61	42	5 円 72 銭
増　減　率　(B−A)／(A)	△ 1.0%	42.1%	31.1%	31.1%
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 3 月期中間期)	4,269	129	90	12 円 34 銭

(修正理由)

上期において、自然災害の発生が少なかったこと、及び良好な相場環境を的確に捉えて収益を確保したことにより資産運用損益が年初に予定していた水準を上回ったことを主因として、中間期の業績予想を修正するものです。

上記の資産運用損益には、サブプライム関連のクレジットデリバティブ評価損が含まれておりますが、利息及び配当金収入や有価証券売却益等の資産運用収益が大きく増加したため、前記のとおり資産運用損益全体では上期業績の押し上げ要因となっております。

なお、 サブプライム関連投資の状況につきましては、別紙をご参照下さい。

2. 平成 20 年 3 月期　通期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）業績予想の修正

（1）連結　（単位：億円）

	経常収益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想　(A) （平成 19 年 8 月 22 日公表）	11,000	200	165	22 円 46 銭
今回修正予想　(B)	11,200	200	165	22 円 46 銭
増　減　額　(B−A)	200	―	―	―
増　減　率　(B−A)／(A)	1.8%	―	―	―
（ご参考） 前期実績（平成 19 年 3 月期）	10,899	272	161	22 円 04 銭

（2）個別　（単位：億円）

	正味収入保険料	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想　(A) （平成 19 年 8 月 22 日公表）	8,650	300	235	31 円 99 銭
今回修正予想　(B)	8,580	300	235	31 円 99 銭
増　減　額　(B−A)	△　70	―	―	―
増　減　率　(B−A)／(A)	△ 0.8%	―	―	―
（ご参考） 前期実績（平成 19 年 3 月期）	8,512	298	188	25 円 69 銭

（修正理由）

中間期の状況を踏まえて、平成 20 年 3 月期通期の経常収益（連結）及び正味収入保険料（個別）の予想を修正するものであります。なお、経常利益、当期純利益及び 1 株当たり当期純利益の通期予想につきましては、平成 19 年 8 月 22 日に公表いたしました数値からの修正はございません。

※上記業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以　上

別紙

サブプライム関連投資の状況について

1．保有状況（平成 19 年 9 月末）

当社が保有するクレジットデリバティブ 2,656 億円（名目元本）のうち、サブプライムローンを一部含む ABS-CDO を 1,114 億円保有しております。また、その他に同関連投資として、SIV（Structured Investment Vehicle）が発行する債券を 40 億円保有しております。

2．信用リスク状況

同ローンを一部含む ABS-CDO は全てスーパーシニアと高格付となっております。 さらに ABS-CDO の裏付資産については、現時点でもその過半が AAA 格を維持しております。また、これら ABS-CDO の裏付資産は、十分にリスク分散が図られているうえ、CDO 等の劣後部分を考慮すると、依然として元本毀損リスクが発生する状況にないと判断しております。

なお、上記 SIV 債券についても、同ローンの組入比率は極めて小さく、元本毀損リスクは限定的であると考えております。

3．評価損の状況等

当中間期において、同関連投資中 ABS-CDO の評価損 252 億円を計上いたします。これは「金融商品に関する会計基準」に則り計上するものであり、元本毀損によって生じた実現損ではございません。 また、今回評価損が多額となったのは、市場の急激な変化によるものと考えております。

一方で、上期における良好な相場環境を的確に捉え、収益を確保したことなどにより資産運用が好調であったことから、この評価損を計上しても、経常利益、当期純利益に係わる通期業績予想の修正はございません。また、当社の財務基盤は依然として強固であり、財務基盤の脆弱化は招いていないと考えております。

4．今後の対応について

前述の通り、当社の財務基盤及び業績予想を揺るがすものではございませんが、多額の評価損を計上したことを受け、更なるリスク管理機能の強化及び高度化を図ってまいります。

以 上